

東由利町報

No. 276 昭和53年 3月15日発行 昭和42年 7月21日第3種郵便物認可 毎月1・15日発行



営農メモ

◎苗代の消雪促進を

豊かで確実な実りを得るためには、育苗形態に合わせて適期に田植えを済ませることが大切です。

そのためには、苗代の早期準備が必要です。雪解けの遅いところでは、灰や土などを散布して消雪に努めてください。

◎塩水選、種子消毒は確実に

苗代期の病害虫の発生を抑え、健康な苗を作るために、塩水選はもちろん種子消毒も確実に行ってください。

なお、塩水選の比重液の割合は下表のとおりです。

種類	比重液	比重	18ℓ (1斗) 水当	
			食塩 kg	硫酸 kg
うるち (無芒)		1.13	3.4	5.1
〃 (有芒)		1.10	2.5	4.1
もち		1.08	1.9	3.3

(東由利町農業総合指導センター)

No 276

3 / 15

予算案などを審議

11日 議会定例会始まる

町議会第二回定例会は、去る三月十一日に招集されました。会期を同月十二日までの十二日間と決定したあと、町長が昭和五十三年度の施政方針を、教育委員長が教育方針を発表。昭和五十二年一般会計補正予算など四案件を審議、全案件を原案どおりに可決して本会議第一日目を終了しました。

今議会には二十三案件が上程され、現在審議がすすめられています。今号では町長の施政方針を紹介いたします。

昭和五十三年予算案を提出し、町政の方針と予算案の概要を申し上げます。

わが国の経済は、昭和四十八年のオイルショック以来低迷しております。明年度の地方財政計画は、前年度比十九・一増になつており、国の財源不足は三兆五百億円ということであり

ます。地方債計画は、公共事業をまかなうため三十二・九増という大幅な伸びになつております。

五十三年度予算は国、地方とも赤字国債を背景にした予算であります。このきたるところで説明を要するまでもないところがございますが、もし景気浮揚に失敗し、今後税収の伸びが期待できなくなると、国、地方とも経済的、財政的に深刻な状態になるわけがあります。

総額十六億円の ジャンボ予算

本町においても、このような事情から可能な限り最大の予算案を編成しました。

総額にして約十六億円—十五億九千九百三十三万一千円で、前年度比二十三・五増、住民一人

当たり二十四万円になつております。

歳入から見ても、町税は前年度比二十二・五増であります。これは五十二年調定額とほとんど同額でございます。地方交付税は五億八千百万円、二十三・三増、町債は三十二・九増、財政調整基金からの繰入れは約二千万円でありまして、その他は省略いたします。

町道の 新設改良十路線 舗装は八路線

歳出において事業関係を見てみますと、最大の伸びは土木費でございます。これについて申し上げます。

町道の新設改良は十路線—一億二千三百万円であります。町道の舗装は八路線—四千七百万円であります。

橋梁架替事業は、山谷橋一橋で一千三百万円。農道関係とし

ては小田橋架替四千四百万円、石高農道付帯工事七十万円、農

免道路負担金が二路線で六百七十万円、ミニ総バ事業中の下吹農道七百万円、計五千八百万円でございます。

林道事業費は杉森林道の新設軽井沢林道の舗装で二千二百万円であります。

農業関係予算 国・県には 十四億円を要望

次に、農業費について申し上げます。本予算案にとられねず国・県への要望を含めて申し上げます。

県営ほ場整備は六十二万。第二次農業構造改善事業は約五億三千万円、さらに特枠として一億円。農村基盤総合整備事業には約五千万円。前に述べました農道には、石高線は五十三年度中に改良分が完了。農免道路根小屋線、同軽井沢線についてはそれぞれ一億円を要望しております。

県営以外のほ場整備は団体営

で上の台地区四・二、アクト地区二・三、板戸地区十一・三を計画。小規模ほ場整備は四箇所—六・七の計画であります。

五十三年度におきまして、本町が国・県へ要望している農業関係予算は十四億円程度でありまして、これによって本町のかのりの農業基盤の改良、農業構造改善の実績が見られるものと思ひます。

農業総合指導センター、農業振興、畜産、放牧場、農村基盤総合整備計画、出かせぎ対策については、予算説明の際に課長より説明させます。

町単独で 計画転作に補助

水田利用再編対策は、減反割当て面積七十九を、対象面積一、一五四・六五割当てました。減反率六・八であります。

対象農家数一、〇二〇戸のうち、現在のところ二・三の人を除いて割当てを了承していただいております。この点深く感謝申し上げます。

しかし、問題は実施の方法であります。そのためにバックホー購入費補助、サイロ設置補助を計上しましたが、このほか計画転作推進のため町単独の補助、また、ほ場条件整備のため、一定条件によって町単独補助をする考えで、今後の補正予算に計上いたします。

地域農政特別 対策事業を推進

地域農政特別対策事業とは、



表紙の
ことば

社会で果たす役割を考えながら、生きがいのある生活を築くことをねらいとしており、今年で六回目。

町公民館では、毎年町内の老人を対象に寿大学（学長小松町長—二五〇人）を開設しています。

これは、お年寄りに学習と交流の機会を提供し、家庭や

一口で申しますと、他の補助事業の実施状況との関連の中で、その地域に最も適した事業を約八千万円内で実施するというものでございます。

本予算案には、その推進費を計上いたしており、整備事業費につきましては今後の補正予算で提案いたします。

開発センターの前庭整備費を計上しております。

これに関連して申し上げておきたいことは、昨年十一月にオープンしましたが、運営に行き届かない点も聴かれますので、今後は職員の訓練に配慮するほか、運営審議会も発足しておりますので、町民の期待に添えるようにいたします。

工事の方は、若干の手直し工事が今春に残っております。農村総合整備計画は、いわゆる農村モデル事業の前段階の作業でありまして、本年度中に計画案を国土庁と協議する予定でございます。

森林組合と 職員の連携で 中核林業に対応

林業費について申し上げます。中核林業に対応する態勢は、町の職員と森林組合職員とのドッキングによって効率を上げたといえ、組合と協議し昨年の十二月からその態勢を実施しました。

五十三年度の町有林造林の事業費は、約一千八百万円であり

ます。土木費において申し上げますが林道について補則して申し上げますと、土場沢線の過疎代行林道舗装は一、五〇〇延長する予定であります。

ヤマメ養殖に補助 商工費は二・二倍に

水産業費においては、ヤマメの養殖に大幅な補助をし、商工費は昨年度比二百二十七を計上いたしました。

高村・黒沢に 簡易水道を計画 自動車ポンプを増置

民生、衛生について申し上げます。

水道事業は、普及率が六十四・五％であります。今後の基本的な構想としては、東由利水道を拡充して解決するべき地域と単独水源を以て解決するべき地域とに分かれると思っております。

五十三年度におきましては、高村、黒沢の二部落で簡易水道が実現できるよう計画中でありますし、奥ヶ沢についても検討中であります。

各福祉事業、年金、衛生については課長より説明させます。

消防について申し上げますと、現在の消防態勢は団員が二百二十三名。機材は自動車ポンプ一台、可搬式ポンプと積載車のセツトが八台、可搬式ポンプ十六台、防火水槽五十七基、消火栓百十一基であります。

五十三年度では、自動車ポンプ一台のほか、無線施設、消火栓ホースの増配備等を計画してあります。

企画室の 機能充実に努力 職員に研修の機会を

総務関係について申し上げます。

職員の研修についてですが、職員はそれぞれのポストにおいて東由利町を代表するものでありますので、東由利町の顔となり得る実務上の能力と、

近代的で豊かな人間性の涵養が必要であると思っております。

そのためには、組織的に実務上の研修と社会経験の機会を設けるとともに、地方自治振興の中核は公務員の能力にかかわるという意識を強めて行きたいと考えております。

企画室の設置について申し上げますと、行政における企画には二面の性質があると思っております。企画の原点はそれぞれの課にありますけれども、社会が多様になり、行政組織が複雑になり、総合的に組織する必要があるといえます。これが企画の機能の一面であり、他の面は各課に属さない新たに企画しなければならぬもの、つまり創造的な企画を検討し、方向づけることであらうと思っております。

本町でも目下、町基本計画をかかえ、農村総合整備計画、新農業構造改善に取り組みしております。これらの事業推進に企画室の機能が發揮できるように努力する考えであります。

蔵・黒淵に 集落センター 人口の歯止めを努力

今後の補正予算について申し上げますと、財源としてみられるものは、繰越金は二千万円計上してありますが、これの決算における増額分。地方交付税は五億八千万円計上してありますが、交付基準額を算定いたしますと六億一千百万円になりますので、この差額。町税におけ

る本予算案と調定額の最終の差額。本予算案には特別交付税は計上されてありませんので、その差額。これらが今後の補正財源となります。

宿小の改築工事費、蔵、黒淵の集落センターは設計完了次第、臨時議会を開き、予算案を審議していただく予定であります。

本町における小学校の状況は、校舎が老朽し、教育機能にもさしきわりをきたしてある実情であります。

幸い、宿小は老朽校舎対策が皆様のご協力によって実現することになりました。他の小学校も、町将来の大計に添うべ

く、今後ともご協力を賜わりますことを願う次第であります。

本町の人口の推移をみますと、昭和三十年一九、七四八人のピーク時に比し、五十三三年三月一日は六、五二一人であります。実に三分の一の減少であります。

人口の流動は、国政によるやむを得ざる動向とはいいながら、このままの方向では憂慮に堪えざるものと考え次第であります。善、住宅地の造成、二次生産事業の開拓、町内雇用の増進等に積極的に対処しなければならぬと考えます。

一丸となつて
新年度に対処

出かせぎ事業所訪問日記

PART II

一月下旬の関東地区事業所訪問の状況については、町報二七四号でお知らせしましたが、係は二月下旬に初めて関西地区の事業所を訪問しました。今回訪問したのは十一事業所でしたが、そのうちいくつかを紹介します。

関西ヤマザキ(株)

大阪第一工場 食品製造に六人が

関西ヤマザキ(株)大阪第一工場(大阪府吹田市)には、鎌田晴也さん(黒淵)をリーダーに六人が就労している。

須田人事課長、新地主任に合意安全就労への配慮を要請し、会社の概要と就労状況の説明を受ける。

→関西ヤマザキ(株)の皆さん



次に、本町の五か年間の予算を対比してみますと、昭和四十八年度の当初は四億七千五百九十一万七千円、これに対して本予算案は十五億九千九百三十三万一千円、この比は三百三十四倍と三倍に達しています。

今後の町財政のビジョンをどう推定するか、今後の課題でございます。

昭和五十三年度を展望しますと、国運にもかかわる政治、財政とも多難な年であります。長いトンネルの中に居るような国内不況、錯綜する国際関係、町村自治体にもこの内外情勢の影響が押し寄せてまいると考えます。

と安全には特に配慮されている感じであった。

東浦土建(株)
技能講習会の要望が

東浦土建(株)(愛知県知田郡)には、佐藤秀也さん(向田)をリーダーに五人が土木建設工事に従事している。

全員と懇談したところ、資格があれば高条件で就労できるので、各種の技能講習会を実施するよう特に要望があった。

立花組

六人が淡路島で

立花組(兵庫県三原郡淡路島)には、三浦彦次さん(田代)をリーダーに六人が就労している。

町の執行部は、この多難な年を職員相互が協力、長短補い合つて町民の負担に比べ得るよう最善の努力をいたす考えであります。議会におかれましても、何卒ご協賛賜りますことを心から希う次第であります。

本荘市由利郡広域圏関係予算につきましては、ここでは省略しまして予算審議の際に担当課長から説明させます。

最後に、昭和五十二年度の町税は二月末をもって、全部完納いたしました。町民の皆様の深いご理解とご協力に厚く感謝を申し上げます、施政の説明を終えたいと存じます。

→立花組で働く皆さん



仕事はため池補強工事、堰堤工事、災害復旧工事、案内作業現場(二箇所)を視察。全員まじめであり、今後はオペレーターとして若い方も就労してほしいとのことであつた。

老朽ため池の補強工事で、土砂くずれのため一人がケガをしており、事故には十分注意するよう要請する。

臨時
議会祝沢分校廃止条例など
四議案を可決

町議会第一回臨時会は去る二月二十八日に招集され、次の四議案について審議、いずれも原案どおりに可決して閉会しました。

一、東由利町一般会計補正予算（第八号）について

○昭和五十三年度事業として予定されていた林道杉森線の開

設工事について、債務負担行為を予算で定め、限度額を一千万円として本年度から発注することができるようにしたもの。

二、町立学校条例の一部を改正する条例について

○町立老方小学校祝沢分校を廃止することについて、条例の

一部を改正したもの。

三、東由利町課設置条例の一部を改正する条例について

○町行政機構の中に「企画室」を設置することについて、条例の一部を改正するもの。

四、職員の特種勤務手当に関する条例の一部を改正する条例について

○除雪作業に従事する職員の特種勤務手当について、条例の一部を改正するもの。

三月一日未明から県内では台風並みの強風が吹き荒れ、海に陸に大きな被害をもたらしました。

本町でも、本格的な春の訪れを思わせた前日の天気と違って変わり、風と雪によって道路がいたるところで寸断され、唯一の交通機関である羽後交通バスも午前中は各便とも三十分以上の遅れを出し、午後からは運休したほか、全町で停電、遅いところでは復旧が午後五時ごろになるなど、生活に大きな影響を及ぼしました。

下郷農業気象観測所（役場前）によると、午前三時二十分から同四時四十分までの風速は平均十メートルを記録したほか、本荘地区

消防事務組合東由利分署の観測では、午前十時に瞬間最大風速三十メートルを記録しており、三月の風としては近年にないほど強いものでした。

この風で、各地区で屋根のトタンがはがされたり、窓が壊されたりするなどの被害が続出。特に、トタン屋根の被害は多く館合新田で部落会館として使用している旧玉米中学校寄宿舎の屋根のトタンが大部分はがされたのをはじめ、蔵小学校や旧下郷村役場庁舎、農協農機具センターなどでも一部トタンがはがされる被害を出しました。

役場の調べによると、被害は住宅五件、作業小屋八件、物置き四件、車庫一件、公共施設四件の合計二十二件ですが、未確認の小破も多少ありますので、被害額はあわせて五百万円にのぼるものと推定されています。

農業を志す若者へ

国や県では、農業後継者を育てようとする研修教育、融資、認定制度などさまざまな対策に取り組んでいます。町でも町内の後継者育成のため、これらの積極的な活用を援助しています。

今年学校を卒業し、これから農業に取り組もうとする後継者や学習の機会を求めている後継者のために、これから研修等の一部を紹介いたします。

コースが準備されています。

農家留学研修

先輩農業者の家で生活を共にしながら、プロの農業者としての生き方や経営感覚を体得するのが、この「農家留学研修」です。

研修は、国内の先進農家に三か月または六か月入る場合と、アメリカ、カナダ、ヨーロッパなど海外先進国の農家に一か年農業実習生として入る場合の二とおりがあります。

特に、海外留学の場合は経費の一部について、五十万円までの貸し付け制度があります。

講座制研修

これは、農業に従事している青少年を対象に行われるもので、農業改良普及所が中心になって行う農業技術・経営などの短期研修のほか、農作業のあい間をみて学習するパートタイム方式の講座制研修があり、それぞれに稲作のほか畜産、果樹、そ菜園芸などの

認定制度

青年農業者

農業に意欲をもつ青年たちをバックアップし、より一層の誇りと励みをもってもらうために「青年農業者」の認定制度があります。

この称号は、各県が行う後継



者育成のための研修（農業者大学校、講座制研修など）を終了した農業青年の中から、「立派に農業をやっている」と認められる人に、県知事が与えるものです。

「青年農業者」の称号を持った人は、農業のプロフェッショナルとして認められたことになり、いま勉強中の人、これから勉強しようとする人には、一つの目標になるでしょう。

グループ活動への助成

後継者の育成で何よりも大切なのは、日ごろの意見や技術などを交換する「場」を確保することです。

町では、青年たちの自己研修活動の発展を願って農業近代化セミナーに助成していますので、多くの参加がのぞまれています。

なお、詳しくは役場（産業経済課）におたずねください。

春のあらし大暴れ

推定被害額 500万円に



秋田県内の最低賃金

秋田県内の事業場および労働者に適用される最低賃金は、次のとおり改正されました。
すべての事業主は、効力発生の日からこの最低賃金額以上の賃金を支払わなければ、労働者を使用することができません。もし違反した場合には、最低賃金法で罰せられます。

最低賃金の件名	最低賃金額	除外賃金	効力発生日
秋田県最低賃金	1日 2,091円 (短時 1時間 262円)		52. 11. 10
産業別最低賃金	木材・木製品・家具・装備品製造業 1日 2,464円 (短時 1時間 308円) ただし、(1)家具・装備品製造業に係る業務に従事するものであって、雇入れ後6か月未満の技能習得中の者。(2)製品または廃材の結束または整理、その他これに準ずる軽易な業務に主として従事するもの。については1日 2,234円 (短時 1時間 280円)	精皆勤手当	52. 12. 30
	卸売業・小売業 (1)卸売業1日 2,480円 (短時 1時間 310円) (2)小売業1日 2,318円 (短時 1時間 290円)	通勤手当	52. 12. 30
	食品製造業 1日 2,350円 (短時 1時間 294円) ただし、雇入れ後6か月未満の者については1日 2,180円 (短時 1時間 273円)	家族手当	53. 1. 27
	自動車整備業・販売業 (1)自動車整備業1日 2,470円 (短時 1時間 309円) (2)自動車販売業1日 2,480円 (短時 1時間 310円)		53. 1. 27
	繊維産業 1日 2,160円 (短時 1時間 270円) ただし、雇入れ後6か月未満の技能習得中の者については1日 2,086円 (短時 1時間 261円)		52. 5. 22 (改正審議中)

(注)

- 最低賃金欄の短時は、当該事業場の一般労働者より労働時間の短い者、時給は、時間給労働者をいいます。
- 最低賃金の概要を、常時作業場の見やすい場所に掲示する等の方法で労働者に周知させてください。

最低賃金について不明の点があるときには、最寄りの労働基準監督署または秋田労働基
局賃金課 (電話0188(62)6 6 8 1) におたずねください。

→ 大部分のトタンがはがされた旧玉米中学校寄宿舎



町企画室を設置

三月一日からスタート

町課設置条例の一部改正が、二月二十八日の町議会臨時会で承認されたことに伴って、町は三月一日に「企画室」を設置、実質的な事務をスタートさせます。

町課設置条例の一部改正が、二月二十八日の町議会臨時会で承認されたことに伴って、町は三月一日に「企画室」を設置、実質的な事務をスタートさせます。

町課設置条例の一部改正が、二月二十八日の町議会臨時会で承認されたことに伴って、町は三月一日に「企画室」を設置、実質的な事務をスタートさせます。

一滴

最近、「行政はサービス過剰ではないか」ということばを、何回か耳にした。このことばの背景にあるものが何であるかは別として、行政は与えるもの、住民は求めるもの、という観念が、まだ息づいているという点については、思いあたるフシがないわけではない。

戦後、日本が民主主義を歩み始めて三十余年。時代は変わり、文化は高まったが、依然としているのがこの「行政は与えるもの……」という個人の内面ではないだろうか。要求、要望の全てを受け入れられなければ、行政サービスの怠慢を毒づき、行政もその限界と節度を弁別することなく、「住民本位の行政」なるとばの上に安住している。過去にそうした悪循環はなかっただろうか。

行政はみんなのもの。そこにあるのは与えたり、求めたりする行政ではなく、「参加する行政」である。「参加する」とは、つまり「理解を高める」ことであり、参加する行政に「サービス過剰」はない。積極的に参加することこそが社会をよりよく築くか、めではないだろうか。

町民のひろば



町の概要	
人口総数	6,521人
うち男	3,191人
うち女	3,330人
世帯数	1,479戸
面積	148.51 km ²
(53. 3. 1)	

定時制三十年の歴史に幕

下郷分校 全日制初の卒業生も巣立つ

三月二日、本荘高等学校下郷分校では卒業生を祝福する卒業式が行われました。

同校は、昭和五十年四月に定時制課程から全日制課程の分校に移行しており、今年は定時制課程最後の卒業生二十三人と、

全日制課程最初の卒業生四十四人がいっしょに巣立っていました。

式典では、まず佐藤本荘高等学校長が式辞に立ち「……東由利で高等学校に学ぶことができたことの意義を深く考えていた



感慨を胸に……巣立つ卒業生たち

だきたい。勉強は学校でのみ行われるものではなく、これからが本当の勉強……」と激励。

分校の榎田教頭のあいさつにつづいて、努力賞や功労賞などに十八人が表彰されたあと、町長と教育委員長からお祝いと前途への期待のことが贈られ、これに答えて卒業生代表が「……学校生活の思い出を胸に新たな気持ちで社会にふみ出し、その荒波を乗り越えてゆきたい……」と力強く決意をのべ、最後に全員で分校歌を斉唱して終了しました。

昭和二十三年八月に、勤労青少年の高等学校教育の場としてスタートした同校からは、今回の卒業生を入れて五百八十七人が定時制課程の学窓をあとにしています。このたび定時制課程最後の卒業生を送り出したことによって、一つの歴史の幕を閉

異動の届け出は早めに

* 印鑑も忘れないで

三月から四月にかけては、就職や進学などで住所を異動する方が多くなります。役場の窓口もこの時期になりますと、毎年混み合いますので、住所を異動する方は早めに準備しましょう。

他市町村に住所を異動する場合（転出）は、異動する前に役場に届け出て「転出証明書」を交付してもらってから、

じたわけですが、同時に全日制課程最初の卒業生も送り出して、確実な歩みをつづけており、町

内で唯一の高等学校教育の場として、ますます大きな期待が寄せられています。

や進学する学校によってそれぞれ違いますので、案内書をも一度確かめてから請求してください。

また、転出の届け出をする時には（転入する時も同じ）、国民健康保険や国民年金の加入者は、それぞれの保険証、年金証書も忘れずに持参してください。

なお、これら届け出には申請者の印鑑が必要です。忘れずに。

あるいは抄本は、就職する会社

ぬきざら

畠山東市郎さん
(狩猟・剥製)



「父親や叔父さんの影響を受けて始めたのが、昭和二十三年ごろ。当時は村田式三十番という鉄砲で、弾も一発ずつ丹念に作ったもの……」と懐かし語るのは、茂沢の畠山東市郎さん。畠山さんは狩猟が好きで、ひとりで、毎年猟期が近づくとなんとなく落ちつかなくなるといいます。猟期以外でも毎月最低二回は射撃場で腕をみがいており、市郡のクレー射撃大会では上位入賞し、昨年と一昨年は連続して県大会にも出場している。

「狩猟のほか畠山さんは鳥獣の剥製技術も持っており、本町ではただひとり剥製士に登録されている。戦争当時に、独学でむじなやまみなどの毛皮なめしを始めたのが、キツカケとか。その後毛皮の加工も学び、十三年ほど前から剥製作りを始めたとのこと。自宅にはガラス張りの鑑賞床を造るほどの熱の入れよう。頼まれるものだけで、年間三〇―四〇体は作っており、月の輪熊を作ったこともあったが、年ごとに剥製にする鳥獣が手に入りにくくなっていくという。練習よりも慣れる一です。口でも筆でもあらわせないところに、剥製のむずかしさとおもしろさがある。それは狩猟でも同じ……」と結んでくれた。

電話はみんなのもの

イタズラはやめよう

電話設備の人為障害が多発しており、電報電話局では協力を呼びかけています。

◆ 家屋の増改築などの際、引込線や電話機等の設備を移転する時は電話局に届け出てください。無届け移転は法律で罰せられることがあります。

◆ 公衆電話のお金投入口へ紙くずを詰め込んだり、落書きなどのイタズラはやめてください。万一、ボックスの破損やイタズラを発見したときは電話局にお知らせください。

◆ 猟銃散弾でケーブルに被害してしまった場合には、直ちに連絡してください。



意見や要望への 対応姿勢などを質問

長谷山二郎議員

町民の間には、補助や行政指導をあてにし、自らは実行しようとしないうえ、まの気分があるの、創意工夫や努力を訴える厳しい姿勢が必要でないか。また、施設演説は予算の数字説明だけでなく、その背景にあるものを町民に訴えるべきでなかったか。

町長 ものによつては補助助成に頼らなければならぬが、自分の力でもできるものはやり通すような意気込みのある人間形成が必要であり、行政もその立場に立つべきであるという見解は同感である。施設方針についてはご指摘の意に配慮したつもりだが、お説を参考にさせていただきます。

町長 一つの結論に全ての意見を取り入れることはムリであるが、共通した意見を求めるための努力は続けたい。最終判断は町長にあるが、自分の



財政の健全運用など 三項目を問う

阿部 剛議員

建設的投資の大幅な伸びが、福祉などを財政的に圧迫しないか。これに対する財政的配慮を持っているか。

町長 地方行政は国政と一貫した中で行われるので、基本的には福祉だけが圧迫されることはない。五十三年度予算にはそうした配慮もある。

産経課長 導入した二十五頭分の精液は確保してある。今後の導入も精液の確保と合せて検討したい。

小集落の簡易水道計画は、できる限り関係住民の負担軽減を図るべきでないか。

町長 有利な補助制度の中で解決してゆきたい。

助役 今回（黒沢、高村、奥ヶ沢）の計画は、第二期山村振

意見だけで結論を出すというようなつもりはない。陳情については、議会の採択を全てすぐ実行することはできないが、一つ一つの問題に処理についての回答を出すよう処置させている。

建設課長 大落一太谷地間の道路は無籍道路なので、今後の処置を検討する。沼一安堵路線は町道なので五十三年度には調査し、整備計画を検討したい。



嫁不足対策など 四項問に質問

長沼久男議員

水田利用再編対策を機会に、農業経営の将来構想をたてるべきでないか。また拡大作目の選択をどう考えているか。

町長 水田の再編成は、基本的には転作をある程度協同化しなければ初期の目的が達せられないもので、農業の経営形態のあり方にまで関係する問題であると考ええる。拡大作目の選択は土地や個人の条件など、同一視できないところに難しさがあるが、最善の努力をしたい。

青少年の健全育成に具体的な対策が必要でないか。これに五十三年度はどんな計画があるか。

町長 嫁不足の解消については今年、町が中心になって周辺町村の青年男女との交流の機会をつくるなど、結果を論ずる前にまず実行してみたい。

過疎対策には工場誘致が必要であるが、工場用地の確保について調査しているか。また集落移転のための住宅団地についても、用地等を調査するべきでないか。

町長 工場誘致のための受け皿については検討しており、本年中には具体的などころまですすめたい。住宅団地についても具体化をすすめる。

東由利水道の 水源対策を問う



川尻幾郎議員

施政方針で東由利水道の拡張を発表しているが、松台や泡ノ淵の一部ではしばしば断水している。水源の現況を再調査し、東由利水道全体の水源対策が必要でないか。また、今冬の水源調査の結果について係から報告をもらいたい。

水道係長 二月は特に渇水期なので、ボツメキ水源と牧山水源をあわせても百二十日程度

不足している。各配水池の調整で配水したが、使用量が多くなると松台や泡ノ淵など高い地区が断水してしまつた。

一滴

厳しかった冬も、かげ足でやってきた陽気に追いつかれ、いよいよ春一四月。官庁や会社などは新会計年度を、学校は新学期を迎え、新年とは違った意味で気持ちを新たにしているものがある。

四月を卯月とも言ふことはよく知られている。卯月はうづぎの花の咲く月の意だとも、あるいは植え月の約言だとも言われている。

また、このほかに花残月、余月、木葉採月、清和月、卯花月、陰月、初夏月、得鳥羽月、乾月という呼び方もある。

卯月に行われる年中行事のハイライトというべきものは、卯月八日を中心とする諸行事で灌仏会、あるいは夏入りという多分に仏教的色彩でいられるものが多いが、農繁期を迎える前ののどかな春のひとときを、一つの区切りとして野や山に新緑を求めて、慰安のときを楽しんだのは、われわれの祖先が考え出したいわば生活の智慧でしょう。

そういう眼で見ると、仏教的色彩の濃い行事も農民的心情と深くかわりあっており、自然と信仰に支配されなければ生きてゆけない人間も理解できそう。

昭和五十三年度の一般会計並びに各特別会計予算の審査は総務常任委員会に付託されたが、内容については関係常任委員会との連合審査とし、当局の説明を求め慎重に審査した。

本予算は、大綱として町の長期総合計画の内容を適確に選択し、編成した予算であると受け止めた。

なかんずく農業が基本である本町では、農畜産物の輸入拡大による外圧の波及や米の生産過剰による転作などの難問をかかえ、ともすれば農業を軽視する風潮さえある中で、産業振興と生産の合理化のために積極的な意を注がれている。

国の景気浮揚策は、ようやくその波及的効果をもたらした。これが本町の社会資本を飛躍的に充実することを期待したきわめて活動的な予算である。今後、宿小中学校を改築し、蔵地区と黒瀬地区に集会施設を建設することを考えると、本町の発展はまさに躍如のことばに尽きる感である。これはひとえに当局が日ごろ熱心に議会と協議し、町民を心から愛するゆえんの成果であり、必ず町民の信頼と賛意を受けるものと思う。

しかしながら、反面において今後経常支出の増加は免れないわけであるが、現時点の見通しでは心配されるほどの

総務委員長 報告概要

行政は住民の立場で

第二回議会定例会最終日の三月二十二日、小松豊総務委員長は、三月十三日に同委員会に付託された昭和五十三年度一般会計および各特別会計の審議経過を報告、それぞれを万場一致で原案どおりに可決しました。

ものはない。ただ、予算執行において資金運用の面では相当苦労があるものと思われる。

執行にあたっては細心に、大担に、さらに行政は住民へのサービスをモットーに、住民の立場に立って執行し、次に掲げる各常任委員会の意見を尊重しながら忠実に実行されることを申し添え、一般会計および各特別会計を原案どおりに決定することにした。

総務 常任委員会

- ・町表彰者の選考と方法を再検討してもよいのではないか。
- ・経費節減のため、教育施設の無人化を検討してどうか。
- ・句碑建立は顕彰であるので、行政の通念上、当を得ないので再検討するべきである。
- ・いこいの森と八塩登山道を、青少年の健全な野外活動のために施設を整備、充実するべきである。
- ・道路愛護デーにおける地域分担を合理化するべきである。
- ・農林水産業振興のための補助

が、目的のために機能を發揮しているかを追跡指導するべきである。

- ・冬季分校は解消の方向で教育の振興を図るべきである。
- ・台山の町有地を住宅用地として、集落の再編を検討してはどうか。
- ・地場産業の振興と振興資金の運用を検討するべきである。
- ・学校教育問題の現状は、当局と教育委員会、議会、学校側の疎通がないので一考を。

教育民生 常任委員会

- ・民生関係 — 青少年の健全育成、公民教育の充実、住民福祉の高揚は時代の要請であり、教育委員会、公民館等関係機関と十分連携の上、効果ある事業運営に努めるように。
- ・特に、町社会福祉協議会が住民福祉の高揚に果たす役割りは大きいと考えられるので人員の増置など、機能を十分に發揮できる体制づくりに配慮を。
- ・消防関係 — 消防団員等の報酬は市郡各町村の中で最も低いので、市郡の平均額程度に引き上げるように要望する。

酬は市郡各町村の中で最も低いので、市郡の平均額程度に引き上げるように要望する。

- ・教育関係 — 先人の遺徳を顕彰し、後世に伝え残すため句碑を建立するという趣旨について異論はないが、町が建立しなければならぬという根拠や妥当性が不明確であり、かつ、調査も不十分と思われるので、明確な妥当性が認められるまで執行を再検討するように。

産業経済 常任委員会

- ・国保特別会計関係 — 保険税の高騰を抑制し、国保事業の健全運営を図るためには、保健婦を中心とした保健推進員の活動や皆検診など、一般会計と関連させた全町民の健康づくり運動を、強力に展開する必要がありと考えるので、その効果が上がるよう一層の工夫を。
- ・水道特別会計関係 — 東田利水道の松台、泡ノ瀬地区は断水が頻発しているため、これを解消するための具体策を早急に講じるよう要望する。

産業経済 常任委員会

- ・後継者対策 — 農業後継者の嫁・婿不足は、深刻の度合いを深めつつあるので、早急に情報交換の場を設けるなど具体的計画をたて、後継者の育成確保に努めてもらいたい。
- ・水田利用再編対策 — 農業団体と連携を密接にし、転作作目の選定と作目の流通対策に万全を期すとともに、集団転作の方向で、各農家の不利益にならないよう積極的な指導と円滑な推進を図るよう。
- ・地場産業の育成と保存策 — 一永年の間、黙々と精進し、地場産業（たとえば、製炭やワラ工芸、木工品工芸の創作など）の伝統を守り、育んできた人たちの功労に報いるように措置するとともに、地場産業の育成と保存対策に努めてもらいたい。

建設 常任委員会

- ・大型予算の事業を多くかかえているが、本町は工期が短いので、できる限り早期発注を心がけ、竣工期日を厳守するように。また、建設課内においては、職務役割分担表を作成して充実に努めてもらいたい。
- ・景気浮揚対策の一環として、できる限り町内の労働力を活用するよう、契約時点で配慮してもらいたい。
- ・冬期交通対策については、幅員の狭い道路も多いので、除雪の便や非常事態の発生等も考慮すると、現有の小型ブルの台数では活動範囲が狭く、増置を積極的に取り計ってもらいたい。
- ・原材料費は前年度より減額になっているので、砂利道は当然、砂利と側溝の管理を第一に執行してもらいたい。

る農業情勢の中で、米をはじめ畜産など問題が複雑多岐にわたっているため、専門分野の関係者で組織する協議会等を設置するなど、機能的な活動と問題解決にあたるよう配慮を。

- ・水産業の振興 — 水産業の振興を図るには、魚族保護と相まって頭首工等の魚道改良が必要と思われるので、その促進体制を早期に確立するように。

肉牛の低相場 長くはない

質による価格差著しい傾向に

政府は昨年の暮、アメリカとの経済調整（黒字減らし）を図るため、八項目にわたる対外経済対策を決定、この中には、残存輸入制限品目のうちオレンジや牛肉などの輸入割当り当てワクの拡大も盛り込まれました。

牛肉の輸入割当り当てワクの拡大に際しては、政府は国内市場への影響を考慮して「ホテル用の高級牛肉」として「ただし書きを付けましたが、一月に入ると国内の枝肉相場は下落し始め、全国の市場にその影響が顕著にあらわれました。昨年四月以降、安定した好価格が続いていた由利家畜市場でも、別表に見るように、二月市場は昨年十二月市場に比較すると、一頭当り単価が去勢牛で百十五円、牝牛で百三十六円も下落し、総じて一頭当り約二万円も安くなっています。

小松徳太郎氏亡くなる

町功労者の小松徳太郎氏は、去る三月五日に亡くなられました。享年九十歳。

氏は、昭和四年に旧下郷村議会議員に当選されて以来、在職すること二十六年。この間、戦後初期の議会議長として、戦後初期の議会議長として、

て新制度における適正な議会運営の確立に努められるなど今日の東由利町の基礎づくりに寄与されました。

また、秋田家庭裁判所調停委員、老方農業協同組合長、秋田県内水面漁業管理委員会委員などとしても活躍され、昭和四十三年には勲六等単光旭日章に叙せられ、同年十一月には村功労者として表彰を受けられました。

ご冥福をお祈り申し上げます。



故小松徳太郎氏

由利家畜市場の動向

52年12月市場の明細

区分	地区	頭数	1頭平均価格	平均体重	kg当り単価
去勢牛	市場	271頭	254,613円	252kg	1,010円
	東由利	48	265,020	260.3	1,018
牝牛	市場	246	263,159	243	1,082
	東由利	30	259,800	238.5	1,089
計	市場	517	258,679	247	1,047
	東由利	78	263,012	251	1,044

53年2月市場の明細

区分	地区	頭数	1頭平均価格	平均体重	kg当り単価
去勢牛	市場	318頭	242,303円	275kg	895円
	東由利	57	239,315	270	866
牝牛	市場	220	234,678	248	946
	東由利	43	221,837	250	887
計	市場	538	239,069	262	915
	東由利	100	231,820	261	888

53年3月市場の明細

区分	地区	頭数	1頭平均価格	平均体重	kg当り単価
去勢牛	市場	286頭	237,517円	266kg	892円
	東由利	38	231,428	268	863
牝牛	市場	252	216,778	240	903
	東由利	28	233,100	252	925
計	市場	538	227,803	254	896
	東由利	66	231,575	260	890

春の交通安全運動

4月6日～4月15日

町長日記

○ 三月十一日に開会した議会は、予定どおり二十二日に閉会した。今議会では個々の議案審議とは別に、①年々膨張する予算に、財政上の懸念がないか。②行政は、速さと細やかさを必要とする。③住民の要望の中に甘えがある場合は、妥協するべきではない。④行政量の増大に職員態勢をどうするか。増員しないで対応する工夫を望む。等が意識の流れの中にあつたことを感じとられた。

○ 高度成長の経済にあつては、前向き積極型で心配がなかつたが、縮小経済にもなりかねない現在、国の経済、財政、景気と町財政との関連を考えなければならぬ。

②計画と根拠が必要。事項は、どうしても遅くなる。今日でも明日でも同じものは今日やらなければならぬ。巧運と拙速の選択である。行政の細やかさは、住民の立場に立つて物事を考えれば、自然心づかいの細やかな行政が生まれてくる。

③住民から要求される行政需用と、行政の持つ能力の限界のかねあひから考えなければならぬこと、行政自体に要求するべき事柄がどこまで

でかの本質を考えなければならぬ。

④職員数は行政量が増えたから増員するわけにいかない。現在の仕事の中で切り捨てても良いものはないか、効率化できるものはないか、常に現状の一つ一つに批判と疑問をもって、改善の対象として考える必要がある。

○ 「すぐやる課」がもてはやされた時があつたが、すぐやる課は実際にはアクセサリーに過ぎない。役場全体がすぐやる気持を持たなければならぬ。

そのためには、役場全体をより計画的体質にするため、年度始めに年間の仕事の計画をキチンと持つことが大切である。

○ 会議が増える。開会閉会を正確にし、バス時間等を考へて決めなければならぬ。会議内容の具体性、進行方向、結果のまとめ。役場内のミーティングも、短時間で要点を整理し、簡潔に結論を出す工夫。

会して議せず。議して決せず。決して行わず……にならないように。

町民のひろば



この欄は町民のみなさんのものです。ご意見や話題、写真などを提供してください。

なお、本紙にあなたの写っている写真があれば差し上げます。(広報係)

阿部美紀子さん(歳少2年) 作文で全国PTA会長賞に

第十四回学研全国児童才能開発コンテストで、「セメント筋肉」と題した蔵小学校二年の阿部美紀子さんの作品が、全国から集まった一万四千五百余点の中から、みごと日本PTA全国協議会会長賞(全国で各学年に一人だけ)を受賞しました。



喜びの美紀子さん

は、美紀子さんのほかに数名が佳作を受けており、同校にも学校奨励賞が贈られ、和田校長は「学校目標に『豊かな表現力(言語表現、文章表現)をつける』を掲げており、その結果のあらわれであり子どもたちの大

県南愛児園から

お礼の手紙

昨年の春、町内各家庭のご協力をいただいた「歳末助け合い募金」の一部は、横手市の県南愛児園(横手平鹿広域市町村圏組合立)に贈られていました。

ここには本町からも二名が入園しており、三月の初め、

町民の皆さん宛にお礼の手紙が社会福祉協議会に届きましたので、一部を紹介いたします。

拝啓

冬の寒さがしみじみと感じられる今日このごろです。

このたびは、私どものため多額のお金をくださりまして、心

善意

袖山小に雑巾50枚
大吹川の畠山チカエさんは、先ごろ袖山小学校に雑巾五十枚を贈り、喜ばれています。

宿小に雑巾20枚

大琴の佐々木トメヲさんは、先ごろ宿小に雑巾二十枚を贈り、喜ばれています。

宿小卒業生に造花

宿老人クラブ(梅津千代松会長一六十二人)では、三月十六日に行われた宿小の卒業式の際に、卒業記念としてクラブ員が作った造花を、十六人の卒業生全員に贈り喜ばれました。

きな励み……」と、喜びを語っていました。

から感謝しております。私ども一円一銭たりともムダには使わず、お金のある有難さを良く味わい、毎日を意義のある生活にして行きたいと思っております。

園は、園児が幼児から高校生までで五十人、先生方が九人のほか調理師、夜警、ボーイマシを含めて全部で六十四人ですが、私も園児は先生方の教えの中で楽しく生活しています。それにたくさんの方の援助を受け

梅津 仁さん

(写真)



「いろんな趣味を持っているが、全部中途半ばな感じ——でもみんな好きなんだから……」と語るのには、大琴の梅津仁さん。今回、係は写真の愛好者として梅津さんを尋ねてみた。写真のほかにスキー、つり、狩猟などの趣味も持っているとのことだったが、写真にしばって話を聞いてみた。

中学のころ、兄さんからカメラをもらったのが写真と縁ができたキッカケとか。その後白黒フィルムと現像から引出し、パネル張りまでの技術を習得、今では白黒用とカラー用の二台のカメラを持つ

ており、一台は常に自家用車に積んでおきシャッターチャンスをおぼろけにしているというほどの熱の入れよう。

自然にテーマを求めることが好きなので、これまでに五十枚以上つくっているパネル写真もそのほとんどが風景だという。

「自分の写したものを、自分の好きなように引伸しをする——それが写真のおもしろ味ではないかな。私は春から秋にかけてはカメラとつり、冬はスキーと狩猟で楽しんでる……」と多趣味をそれぞれに楽しんでいることを力説してくれた。

犬の放し飼いはやめましょう!

犬の放し飼いは以前に比べると少なくなりましたが、それでもまだ苦情が寄せられています。

普通の家庭の子どもより恵まれていないのか」とさえ思われるくらいです。

しかし、今の私どもにできることと言えば、お礼の手紙を書くことと東田利町の繁栄を心から願うことだけです。

皆この御恩は一生忘れることはないと思います。本当にありがとうございます。

敬具

慶弔

2月21日(3月20日)

誕生



おめでとう

横山立治 泡の淵 悦郎 長男
佐藤和寿 泡の淵 良一 長男
小松ひとみ 高戸屋 功 二女
遠藤祥誠 三の前 治平 長男
小野吉則 高屋 吉秋 長男
渡辺しのぶ 時雨山 肇 長女
浅田和幸 舟木 均 二男
村上明子 宇戸坂 耕助 三女
猪股信弘 下通 正右衛門 長男

県政広報誌

「あきた」をどうぞ!

県政広報誌「あきた」は、秋田県広報協会が発行している月刊誌で、県勢の状況や秋田の過去、現在、未来を知るのにぴったりです。

購読料は年六〇〇円(月五〇円)で、役場総務課で申込みを受け付けています。

○お悔み申し上げます。

阿部ソノ	小倉	72歳
小松 賢	石高	22歳
小野サダミ	上里	82歳
小松徳太郎	中通	90歳
遠藤ヲスミ	野田	76歳